

研 究 分 野	増養殖技術	部名	漁業開発部
研 究 課 題 名	沿岸漁場整備開発調査 市浦地区広域型増殖場におけるヒラメ中間育成事業		
予 算 区 分	水産基盤整備費		
試験研究実施年度・研究期間	H.15 ～ H.16		
担 当	三戸 芳典		
協 力 ・ 分 担 関 係	栽培漁業振興協会		

〈目的〉

十三湖前潟に整備した増殖場の導水路において、ヒラメ中間育成を行い成長や生残率について試験した。

〈試験研究方法〉

(1) 育成施設

前潟増殖場導水路(水深1.5m)にフロート式鋼管筏を設置し、網生簀(5m×5m×2m、目合:6mm)1面を使用した。

(2) 育成期間

平成15年7月10日から7月18日までの8日間飼育した。

(3) 給餌

給餌は1回あたり配合飼料200g(C1000を50gとC2000を150gを混合)を1日3回投与した。

〈結果の概要・要約〉

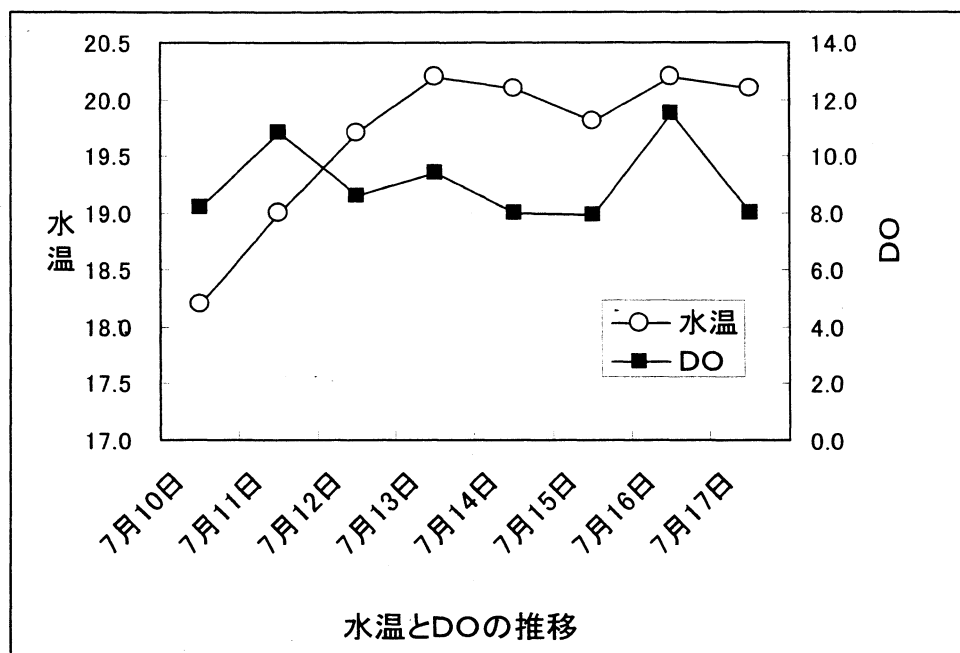
(1) 水温及び溶存酸素量の測定

測定は毎日午前8時に行った。飼育期間中の水温は、18.2～20.2度の範囲でDO値は8.0～11.5mg/lの範囲であった。

(2) 稚魚収容尾数及び取上げ尾数

青森県栽培漁業振興協会産のヒラメ稚魚11,000尾(平均全長47mm、範囲38～50mm)を収容し、8日間の飼育後8,688尾(平均全長51mm、範囲38～65mm)を取り上げた。生残率は79.0%、日間成長量は0.5mm/日であった。

〈主要成果の具体的なデータ〉



〈今後の問題点〉

全長 50mm 前後のヒラメ稚魚の場合、日間成長量は 1 mm/日見込まれるのに対し、今回の飼育結果では 0.5mm/日と成長が悪い結果となった。原因としては、導水路の水流が早く給餌した配合飼料がヒラメ稚魚に捕食される前に網生簀の外に流出したものと考えられる。今後は、給餌量の増量や配合飼料に水を含ませ沈下を早めるなどの対策が必要である。また、収容サイズが 38~50mm と大小差があり、そのうちの小型魚の成長が見られないことから、今後収容サイズを揃えることにより成長・生残率の向上が期待できるものと思われる。

〈次年度の具体的計画〉

前年同様の施設を利用し、7月上旬から下旬にかけて中間育成を実施する。

〈結果の発表・活用状況等〉